

学校だより

小倉小学校

7月号

平成30年7月2日

サッカーから見る日本文化

学校長 西本和広

ロシアで行われているサッカーワールドカップがいよいよ佳境に入っていました。日本代表チームは、大会前の劣勢の予想をくつがえし、16強に進出の活躍を見せています。

今回、代表チームの活躍だけでなく、日本のサポーターの行動が世界中で反響を呼んでいます。それは、試合後のスタンドのゴミ拾いです。こうした活動は、1998年に日本が初めて出場したフランス大会から始まっているということです。今では、日本で行われるサッカーの国際試合だけでなく、Jリーグの試合でも、終了後のサポーターのスタンド清掃が当たり前のように行われています。

サッカーだけでなく、高校野球の試合でも、各校の応援団がスタンドのごみを持ち帰り、次の試合のチームの応援団にスタンドを引き継いでいます。使った場所をきれいにして去る、次に使う人のことをおもひやる、場に対する感謝の念を持つというのは、日本社会ではあるべきマナー・良識として定着をしています。そしてこのことは、小さいころから学校教育の中で当たり前のように指導をしています。しかし、このような光景を目にした海外の人たちの目には驚きの光景と映ったようです。海外、特に欧米では、学校の清掃を子ども自らが行うという習慣がなく、専門の清掃作業員の仕事であると考えられています。したがって、お金を払って観戦したスタンドのごみを自ら拾うなど、思いもよらないことであったのです。

そして、このような日本サポーターの行動は、世界の賞賛と共感を得始めています。英公共放送「BBC」は、「日本人のファンは試合後にみんなで掃除を始め、一列ずつ、一席ずつ、自ら持ち込んだゴミ袋を使って丁寧にゴミ拾いをした。サムライブルーのサポーターは、一度たりともこのマナーを忘れたことがない」と伝えました。

コロンビア対日本戦の試合後、日本のサポーターがゴミ袋を取り出してスタンドの清掃を始めると、その光景に触発された一部のコロンビア人サポーターも同じようにゴミを回収し始めたということです。第2戦のセネガル戦の後、日本とセネガルのサポーターが共同してゴミ拾いを行う姿がスタンドにはありました。日本の試合だけでなく、ウルグアイ対サウジアラビアの試合後に、両国サポーターによってこのようなゴミ拾いがおこなわれていたと報道がありました。日本発のよき習慣・マナーが、世界にひろがりを見せているのは、とても誇らしいことです。

昨今、日本を訪れる外国人観光客が増えています。彼らが一様に驚くのが、町の清潔さです。これは、長年、日本がはぐくんできたすばらしい国民性・文化であるといえます。そして、それは子供のころからの学校教育の影響も大きいものであると考えます。

これからも、きれいな学校、きれいな地域づくりに取り組んでいきたいと思いを新たにしているところです。



7月行事

- 2日 (月) 登校指導、登校あいさつ運動
通学路セーフティネットの日
- 3日 (火) 下校あいさつ運動
- 6日 (金) 基礎学力教室
- 7日 (土) 子どもセンター (消防訓練)
- 9日 (月) スクールカウンセラー
- 10日 (火) 桃の学習 (4年)
- 12日 (木) ALT
- 13日 (金) ALT、委員会活動
- 16日 (日) 海の日 (祝日)
開校記念日 (118周年)
- 18日 (水) クラブ活動
- 20日 (金) 終業式
- 21日 (土) 小倉夏祭り
- 23日 (月)、24日 (火) 個人懇談会

開校記念日

7月16日は、小倉小学校の開校記念日となっています。118年前 (明治33年) に小倉上尋常小学校と小倉下尋常小学校が合併し、現在の場所に小倉尋常高等小学校が開校しました。(ちなみにこの年は西暦1900年です。) 当時の生徒数は365人、学級数7、教員数7という記録が残っています。



昭和11年に完成した校舎

学校運営協議会

本年度より、学校運営協議会を設置しました。これは、地域住民や保護者などが学校運営に参画する目的で設置されるものであり、委員の方々によって、学校の運営の基本方針の承認や、教育課題解決のため手立てを協議が行われ、6月22日に第1回の会合を実施しました。

第1回会合で承認された学校運営基本方針は、本校HP (学校評価) に掲載をしています。

用水路に注意!

この季節、用水路や宮井川の水量が多くなっています。転落すると生命にかかわる事故につながります。覗き込んだり、水の近くで遊んだりすることのないよう、ご家庭でもご指導をお願いいたします。また、田や畑は農家の方の大切な財産です。特に、田の樋や堰を触ることのないように併せてご指導ください。

季節の詩

農家のまひるは ひっそりと すいかのるすばんだ
でっかいやつがごろんと一つ ざしきのまんなかにながっている
おい、どろぼうがへえるぞ
わたしがすいかだったら どうしてふきださずにいられたろう
(西瓜の詩 山村暮鳥)

すいかをくおう すいかのことをかんがえると
そこだけ明るく 光ったようにおもわれる
はやく くおう

(西瓜を喰おう 八木重吉)

